

令和7年度地域おこし協力隊 秋山 隊員

角田市農業振興公社では、令和7年7月1日から地域おこし協力隊員、秋山隊員の活動を支援しています。秋山隊員は、協力隊の任期満了後に果樹農家として就農することを目標に、現在は令和6年12月まで地域おこし協力隊であった、吉川一利さんの梨農園にて栽培管理技術を学んでいます。

秋山隊員から、角田市の印象を聞きました。

埼玉県川口市から角田市へ移住してきた秋山泰宏（あきやま やすひろ）です。

移住してきた私が思う角田市の良いところの一つに風景があります。ここで生まれ育って長く住んでいる方達は思わぬかも知れませんが、自然と田園風景、趣がある商店街などは雰囲気があります。交通渋滞とは無縁で、ゆったりと暮らすにはとても良いと感じました。

生活での印象は、「夜がすごく静かでご飯美味しい」でした。埼玉県での生活は夜でも角田ほど静かになることはなく、スーパーのお弁当も角田ほど美味しいとは思いませんでした。また、角田市に住んで間もない私に、近所の方々が採りたての野菜をお裾分けしていただいたことがあります。いただいた野菜はとても新鮮で美味しく、角田市の方々の気持ちに感動し、移住して良かったと感じました。

思いました。

先ほどのお裾分けの話もそうですが、角田の人は皆さん優しく温もりのある人が多い印象を受けました。気のせいと思っている人もいられるかもしれませんが、私自身、過去に職人の仕事や規律が厳しい世界にいたこともあり、尚更そう思うのかもかもしれません。

現在、私は吉川果樹園で梨の栽培作業がどれだけ大変かを身をもって経験しています。そこで感じたことは、農家の皆さんは体力がある方ばかりだと思いました。どのような仕事にも共通しますが、体力と気力が大切だということを様々な農家の皆さんと接するごとに思われます。今後もここ角田市で、美味しい梨を届けられるように頑張ります。



秋山隊員

第62回 目黒区商工まつり

公社では、消費者と生産者が交流し、角田市の魅力を発信しながら農産物の販売促進活動（通称「あぶくま農学校出前塾」）公社では、を実施しています。

今回の出前塾では、11月8日（土）、9日（日）の2日間にわたり、第62回目黒区商工まつり（リバーサイドフェスティバル）に、市内の生産者4名と公社職員2名、計6名で参加しました。イベント会場である区民センターには、目黒区の飲食店や企業に加えて、8自治体が出店するなど多くのブースが賑わいました。

当日は、北風が肌寒い日となりました。角田市ブースでは、参加生産者が生産した洋梨や秋峰梨などの果物、ニンニクや人参などの野菜、味噌や梅干しなどの加工品、計14品目を販売しました。角田産の農産物や加工品は、多くの来場者に手に取っていただき、特に梨は他の自治体で取り扱いがなかったこともあり、あっという間に完売しました。

当初、2日間で販売する予定で準備していた商品は1日目終了時点でほぼ完売となりました。

目黒区の皆さんが角田市の農産物を心待ちにしていることが改めて実感できる場となりました。今後も、こうした消費者との交流の場に、農業者の皆様と共に積極的に参加してまいります。

今回の活動を通じて、地域の食と農への関心を高めると同時に、角田



目黒区商工まつりの様子

市の魅力発信と農産物振興に向けた取り組みを進めてまいります。

農業振興公社だより

角田市農業の明日を見据えて



理事長 黒須 貴

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は、ここ数年と同様の酷暑が続き、農作物の高温障害などの影響が心配されました。また、昨年末からは、米の流通量が減少し、令和の米騒動と言われるようになり、米価が高騰し、令和7年度米の作付拡大に期待が寄せられました。

角田市内の令和7年度主食用米の作付は、2,308ha、前年比で239haの大幅な増加となり、1等米比率は約86%と、平年並みの作柄を維持しました。園芸作物は、高

温や水不足による影響が見られたものの、梅や梨などの果樹類は順調に生育したようです。近年の気候変動の中で、農家の皆さんがこれまでの知見を活かし、県など関係機関の指導や情報に耳を傾け、生産に前向きに取り組まれた成果が現れたものと、心から敬意を表します。

気になる米生産の動向であります。が、農林水産省によると令和7年度主食用米は748万トン（前年比で69万トン）の大幅な増産となる見込みであり、令和8年の生産目安として同省は711万トン（前年比37万トン減）の提示を決定。これは令和6年比で32万トンの増産とのこと。なお、来年6月末の民間在庫量は過去最大の水準が見込まれることから、今後の動向に注意が必要。また、農水省の令和8年度予算概要では、新たな栽培法の普及（対高温・多収穫品種への切り替え、

◆ 発行 ◆

（公社）角田市農業振興公社
〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊四
電話 (0224) 63-2328
FAX (0224) 61-1521
URL <http://www.kakunou.or.jp/>

E-mail kakuda@kakunou.or.jp



「乾田直播」等新栽培法の検証・普及に40億円、米の生産量担制度向上に8億円、その他の重点施策として、物流革新、水田活用の直接支払交付金を令和5年度同規模の2,760億円を計上して、主食用米以外の作物生産を後押しするほか、政府備蓄米買い入れの再開を予定しているとのこと。いまだ不透明なところもあり、とりわけ持続可能な米の生産と米価安定は懸案事項です。で、国・県の動きを注視して、市の政策に反映させ、安定した農業経営の推進ができるよう取り組んでまいります。

このような中、公社の事業の柱である次世代育成等にかかる見直しを行なっています。就農希望者を対象とした「土の塾」、若手農業経営者の育成を目的とした「風の塾」、市内と都市部の小学生等が農業を体験する「農業体験学習」について、時代に即した事業となるよう、多世代の担い手が参加して見直し作業を進めて



絆交流事業の様子

います。また、公社では新たな地域おこし協力隊員1名を昨年7月から受け入れ、将来の就農を見据えて梨の栽培技術等の習得に取り組んでいます。12月には市内農業法人に新たに地域おこし協力隊員1名が着任し、技術習得、ネット販売、就農を目指すとしています。

本年も角田市の持続可能な農業のために、人づくりをはじめ関連事業を推進してまいります。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。挨拶いたします。

あぶくま農学校農業体験学習 「秋」



〓 北郷小学校体験学習 〓

〓 西根地区農業体験交流事業 〓
10月18日(土)、西根地区交流田で、目黒区立月光原小学校の児童及び保護者、北郷小学校と北角田中学校の有志、合わせて57名が参加して、稲刈り体験交流事業が行われました。当日は、前日の雨で田んぼもぬかるんでいる状況でした。児童たちは田んぼに足を取られて、作業ににくい状況でしたが、最後まであきらめずに稲刈りを行いました。

稲刈りを終えた後には、カエルを捕まえるなど、自然を満喫していました。



西根地区農業体験交流事業の様子

9月26日(金)、北郷小学校の5年生20名による稲刈り体験学習が行われました。連日続いた残暑も落ちつき、児童たちにとって作業しやすい気候になりました。

JA青年部北郷支部の部員から、鎌の使い方について説明を受けた児童たちは、最初はきこえない感じでしたが、慣れてくると順調に大きく育った稲を刈り取っていました。刈り取った稲はコンバインで脱穀を行いました。作業後、児童たちには、農業体験学習の修了証書が授与されました。



北郷小学校稲刈り体験の様子

〓 金津小学校区農業体験交流 〓
9月27日(土)、旧枝野小学校近くの金津小学校区交流田で、目黒区立下目黒小学校児童及び保護者、金津小学校の有志、合わせて66名による稲刈り体験交流事業が行われました。

交流田では、首を垂れる程に実った稲穂が児童たちを迎えました。実行委員会から鎌の使い方について説明を受けた児童たちは、身長の手分ほどまで成長した稲を競うように刈り取っていました。脱穀するため腕いっぱい稲を抱えて運ぶ児童たちは、楽しそうに笑顔を浮かべていました。



金津小学校区稲刈り体験交流の様子

〓 角田絆交流事業 〓
10月4日(土)、北郷地区交流田で、目黒区立緑ヶ丘小学校児童及び保護者、北郷小学校の有志、合わせて43名による角田絆交流事業の稲刈り体験が行われました。

当日は天候に恵まれ、少し汗ばむ陽気となりました。春に一生懸命植えた稲は大きく成長し、児童を迎えているようでした。稲刈りは予定よりも早く終わってしまい、児童たちの飲み込みの早さに驚かされました。稲刈り体験終了後、コンバインの刈取作業を児童と保護者は食い入るよう見ていました。



角田絆交流事業の様子

〓 角田市農業経営者会議 〓
〓 令和7年度視察研修会 〓

角田市農業経営者会議(星光彦会長、会員47名)は、令和7年11月3日(月)・4日(火)に「角田地域担い手育成総合支援協議会」との共催事業として秋田県湯沢市で開催された「第148回秋田県種苗交換会」を視察してきました。

この催しは「JAグループ秋田」を中心に10月31日(金)〜11月4日(火)にかけて開催されたもので、最新農業機械及び農業技術・資材等の情報収集の場として毎年、秋田県内で開催されており、今回は「枝野地区担い手農家協議会」(門馬希道会長、会員10名)との合同事業として開催し、14名が参加いたしました。視察した第2会場の「松ノ木河川公園」では、農業機械化ショー、JA全農あきた資材展、農業関連資材等展示販売ブース、ドローンデモフライト等、秋田県内外から50を超える関連企業が集結した大規模な展示会が開催されていました。当日は雨天にも関わらず、大勢の来場者が集まり、角田市内から来場していた他



秋田県種苗交換会の様子

の農業者団体もいました。

展示されていた農業機械は、スマート農業に特化した機械が中心で、参加した会員らは作業効率の向上、労力削減を可能とし、より使い勝手の良い機械の情報やカタログ等の収集に各ブースへと足を運び、熱心に説明を聞いていました。

角田市農業経営者会議では、今後このような展示会への参加、研修会及び講演会等を開催し、個々の農業経営に対する新たな知識、情報等を会員をはじめ、市内の担い手農家に対して発信、共有しながら、角田市の農業発展に努めて参ります。

〓 就農相談会 〓
〓 今年度の取り組みについて 〓

去る7月12日(土)、夢メッセみやぎで開催された「マイナビ農林水産FEST」、11月23日(日)東京ビックサイトで開催された「新・農業人フェア」へ参加してきました。

これらのイベントは、農業を担う人材発掘を目的として毎年解されており、両会場とも、開始から終了まで、多くの方に来場いただき、2日間で17名の就農相談を受けました。角田市農業振興公社の相談コーナーでは、相談者から希望する農地面積や栽培したい作物等の話を聞き取り、一人ひとりに合わせた就農までの流れと角田市の支援制度について説明をさせていただきました。

イベントに来ていただいた方の中には、角田市に移住して就農したい方や、角田市の話を聞くうちに興味をもったという方もおりました。

公社では引き続きこのような就農相談会に参加するほか、独自の相談会を企画・開催するとともに、SNS等を活用してより多くの相談者を呼び込み、新規就農者の確保に繋げてまいります。



〓 新・農業人フェアの様子 〓

〓 農林水産 FEST の様子 〓